

【1】 設計の理念と考え

① ワンスロープの大ホール

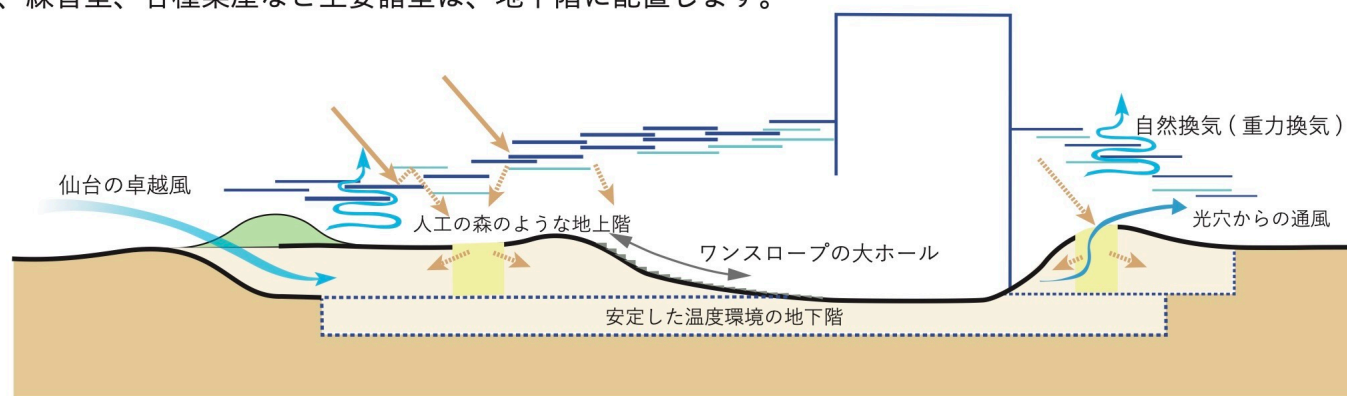
平坦な敷地に起伏を設け、変化に富んだ地上階と地下階をつくります。
地上階と地下階は、ワンスロープの大ホール（一部2階席）の客席によって結ばれます。

② 人工の森のような地上階

地上階は、CLTと鉄骨のサンドイッチパネルによる屋根及び壁によって、木漏れ陽の差し込む人工の森を感じさせる構造体として、周辺環境との調和を図ります。フライタワーを中央に配して、四周に向かって低く広がる裏表のない半屋外の庭園のようなランドスケープをつくります。

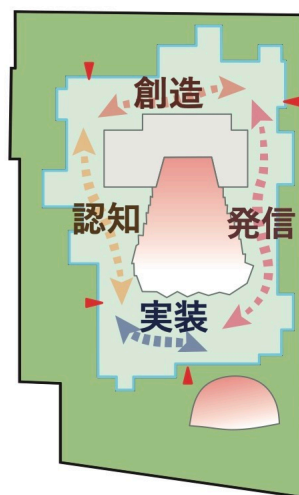
③ 安定した温度環境の地下階

地下階は随所に小さなドライエリアを配置し、地上階との関係を生み、安定した温度環境をもつ空間とします。小ホール、練習室、各種楽屋など主要諸室は、地下階に配置します。



④ 庭園のような地上階に点在する災害文化創造・発信機能

地上階は、周遊可能な庭園のような空間として、人々が自由に散策できる場とします。
災害文化創造・発信機能は、周遊路に沿って4つのゾーン（認知 / 創造 / 実装 / 発信）に分けて点在させます。
ホールと災害文化創造・発信機能を二分するのではなく、地上階に点在させることによって、来館者が日常的に体験できる施設とします。



⑤ コンサートやイベントで日常的に賑わうホワイエ

地上階、地下階の双方に設けられた広いホワイエ空間は、無料のコンサートやイベントの場として、日常的な賑わいを創出します。



地上階ホワイエの無料コンサート



地下階ホワイエのイベント

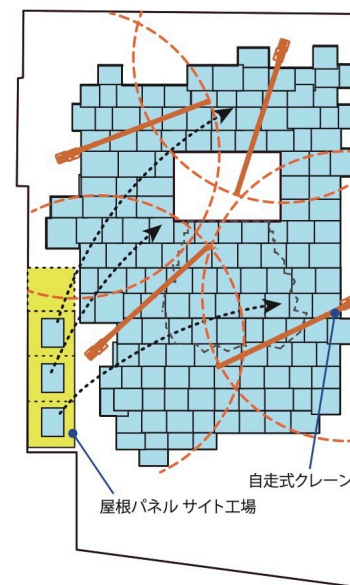
【実施方針】

【2】 設計を進める上で特に留意すること

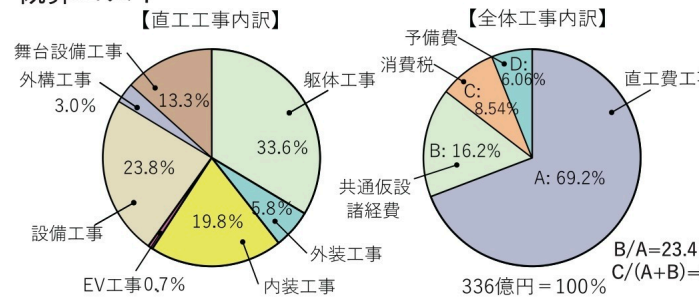
- ① 大ホールの音響設計においては、屋根の構造と対応した、浮雲のような音響反射板を設置します。大ホールの構造及び音響のための模型（スケール 1/10 程度）製作により、的確な構造・音響を検討します。
- ② 地上階では広瀬川に沿って吹く定常風を取り入れ、自然光も利用した快適な屋外的環境をつくることに留意し、地下階では、安定した温度環境を利用した快適な室内環境をつくることに留意します。
- ③ 今後起こりうる災害に対して、安全であることに配慮した設計を行います。特に水害に対しては、地下への雨水流入部に自動起立型の止水板を採用し、電気室は平面の中央付近に配置するなど、万全の検討を行います。
- ④ 市民説明会、ワークショップなどによって市民ユーザーとの対話を行いながら、定期的な会合を通して、楽団関係者、展示関係者、市関係者との合意形成を着実に遂行します。

【3】 コスト縮減に関する提案

- ① 屋根構造や屋内壁に CLT を利用したユニット工法を検討します。
・屋根構造や屋内壁の CLT ユニットの、敷地内で組み立てるサイト製作工法を提案します。
・CLT の調達には、宮城県内で供給可能な工場を特定しています。
・屋根の構造体は、数パターン程度に類型化し、容易な施工が可能となる工法を提案します。
- ② 地下空間は安定した温度環境であることを最大限利用し、ランニングコストの低減を図ります。
- ③ 県産材（杉）の木質ペレットを用いたバイオマス燃料を採用し、ランニングコストの低減を図り、カーボンニュートラルに貢献します。
- ④ 舞台音響反射板の転換方式を、できるだけシンプルでハイコストパフォーマンスな方法を提案します。



概算コスト



- 躯体と仕上を兼用しているため、全体的にコストパフォーマンスを高くすることが可能です。
- ワンスロープの大ホールや、シンプルな舞台設備とすることで、予備費を設定することが可能です。
- 予備費は計画上の安全率として、不測の事態や物価上昇に対応することができます。

【4】 将来の大規模改修を想定した設計上の配慮

- ① 交換の容易な設備機器を選定する計画とします。
舞台機構、照明、音響の諸設備機器について、将来の交換が容易な余裕を持った機器のレイアウトを検討し、一般設備機器についても、同様に交換の容易な配置、機器の選定を行います。
- ② 地上階、地下階の高天井であるオープンスペース等では、床面からの空調とすることで、メンテナンスを軽減します。
- ③ 一般照明では LED を標準仕様とし、舞台照明においても、可能な限りの LED 化を検討します。

階別面積表

1F	8,691 m ²
B1F	16,570 m ²
B2F	5,061 m ²
合計	30,322 m ²

地下2階駐車場	4,162 m ²
---------	----------------------

※ 駐車場は、地下2階の建築の中に配置しています。

整理番号